

プラネタリオンという言葉を知ることがあります。プラネタリウム解説員、星のおねえさんやおにいさんのことですね。科学館学芸員や解説員は、いわば天文学をはじめとする科学と人々を繋ぐ、橋渡しとも言える職業の一つとして最近注目されています。大学院を卒業して、科学館や公開天文台に就職する人も少なくありません。

では、そんなプラネタリオンになるまでには、そのような道のりが待っているのでしょうか？そして、学芸員に要求されるものとはどんなものなのでしょうか？

● **プラネタリオンの素**

・ **学芸員資格**

この資格は全国の大学で開講されている学芸員コース(実習もある)をとるか、文部科学省が毎年秋に実施する試験に合格するか、あるいは講習などで単位を取得すれば得られます。しかし、科学館では、学芸員資格をスタッフの必要条件としていない場合も多く、理系の場合は教員資格を考慮する場合もあります。

・ **教育者・研究者としての能力、素養**

これはむしろ学芸員資格よりも大切と言えるでしょう。大学時代に勉強しないで切り抜けて来た人にとってはなりません。当然しっかりと吸収して来た人が求められるわけです。また、文系学部だった人も厳しいと言えるでしょう。しかし、歴史分野で科学・技術をやってきた人は可能性があります。

そして、場所によっては専門知識を要求される場合もあります。大学院を卒業した人がこの職につきことも珍しくはありません。

the way to be a **プラネタリオン** ~科学館学芸員になるには？

◇ **科学館や天文台の職員公募情報収集源** ◇

- ★天文月報：美星天文台やぐんま天文台、かわべ天文公園など、公開天文台の公募情報がのることがある。プラネ関係はあまりない。
- ★ML：公開天文台だけでなく、名古屋科学館、川口市立科学館などプラネタリウム関係の公募はMLを情報源とするところが多い。
<主なML>・tennet ・JAHOU(日本ハンスオンユニバース)
・天文教育普及研究会 ・天体観測施設の会
・各プラネタリウム関係のML など。
- ★口コミ：大事な情報源。退職者情報や、新しい科学館などの情報はここから。
- ★大学の研究室：公募書類が送られてくることがある。特に教育関係の大学。
- ★周囲にアピール：科学館の仕事に興味がある、と大学の先生や先輩にアピール。まわりとのつながりを通して口コミで情報が伝わってくることもある。

◇ **有用なweb情報源** ◇

- ・「公開天文台の就職を考える」
http://homepage3.nifty.com/midorikiseki/pub_obs.html
- ・「天文せんとや生まれけむ」
<http://homepage3.nifty.com/midorikiseki/butaiura.html>
かわべ天文公園の矢治さん(問い合わせ先: kentaro.yaji@nifty.com)の体験を交えて、公開天文台への就職の道のりがかれています。公開天文台を考えるなら必読。
- ・「学芸員になるには？」
<http://member.nifty.ne.jp/science/museum/becura.html>
大阪市立科学館の渡部義弥さんのページより。学芸員になるまでが詳しく書かれています。
- ・「学芸員への道～あすの博物館学芸員をめざして～」
<http://candy.hus.osaka-u.ac.jp/esthome/matusita/Museum/gakumichi/>
- ・「学芸員資格についてのQ&A」
http://toshiito.cside.ne.jp/curator/curat_QA.htm
科学館などによく寄せられる職員採用関係の質問に対してFAQで答えています。
- ・日本プラネタリウム協会のWEB
<http://planetarium.jp/pub/topics/>
こちらでもできる限りの公募情報を流しています。
- ・「学芸員就職課」
<http://www.geocities.co.jp/SilkRoad/9939/index.html>
学芸員募集の掲示板など。ただし、プラネ関係はそんなに多くは無いです

コミュニケーション能力、教養、体力研究ばかりできてても人と接することや苦手ではこの仕事には向いていないでしょう。また、サイエンスの話でも極力専門用語を使わずに説明できるければなりません。そのためには様々な分野における教養の知識と、人に伝える表現力が必要とされるのです。

● **そして、険しい道のり**

・ **採用頻度**

全国には五百をこす科学館、プラネタリウム、天文台がありますが、天文担当はどこでも平均二〜三名程

度です。全国で一年あたりに公募されるのは二十名程度。多くの場合、採用は一度に一名です。この一名の公募に四〜五十名が殺到する、狭き門なのです。

・ **公募情報**

公募情報はあまり広くは出回りません。また公募が出てから採用までの期間が短い場合が多いです。例えば、昨年の秋に応募があったある科学館では、募集書類の配布が十月十日〜二十日の上に、×切が二十四日などとなっています。こまめに募集情報をチェックしないとすぐに消えてしまいます。

また、意外と口コミ、そして自分からのアピールなども重要な情報源

集の手段となっています。全国の科学館に「自分はこういう仕事をやりたい」と手紙を書きまくった、という例もあるそうです。また、この天プラのMLの中でも、公募情報を見つけて流してくださる方も多いです。

・ **公募情報の主な入手先は表にまとめてあるのでそちらを参考にしてみてください。**

「ここまで書いて来ましたが、これはすべてに当てはまる、というわけではありません。かなりケースバイケースで、変わってくるものです。プラネタリオンを目指すならチャンスは積極的に自分からつかみに行った人の勝ちです！」

天プラMLメンバー募集

現在天プラでは科学館と学生との意見交換の場としてメーリングリスト(ML)を運営しています。MLでは

- ☆学生と科学館との共同の企画の話題
- ☆天文の普及についての意見、議論
- ☆科学館やプラネタリウム見学の感想
- ☆職員公募情報 etc...

のような話題が議論されています。天文学の普及に興味のある方ならどなたでも参加できます。メールマガジ的に受信していただくだけでもかまいません。興味のある方は下記のメールアドレスまでご連絡ください。

「天文学とプラネタリウム」

URL <http://www.ioa.s.u-tokyo.ac.jp/~takanashi/tenpla/>
mail takanashi-tenpla@ioa.s.u-tokyo.ac.jp



▲道行く人にいただいた天ぷら。具材は春の山菜でした。

「編集後記」
三月某日、国立天文台の最寄り駅でもある某M駅で天の川急便(※)の皆さんに混ざって、ゲリラ観望会を行っていったときの事。なにやらビニール袋を持って、一人の女の子が近づいてきました。「あの…これ食べてください」といって、その人が

「第一号が予定を大幅に遅れて(ある意味予定通りとも言える)発行される運びとなりました。これに際してご協力くださった皆様、投稿いただいた皆様、どうもありがとうございました。また、学会前にもかわらず、私の「この記事」に記事を書いてくださる編集部の皆さん、ありがとうございました。(編集長・福士)」

※ゲリラ観望会・天の川急便 <http://www.spacecabln.com/guerilla/>